

### 1. 「こどもサポーター」（こころ支援）の趣旨

小学校や中学校における不登校やひきこもりについては、学校の教員だけで解決できないことが多く、第三者の関わりが求められている。「こどもサポーター（こころ支援）」は、学校やクラスあるいは社会になじめない子どもたちに対して、居場所作りを基本とした人や社会との接点作りをサポートすることを狙いとする。こどもの心がどうなっているのか、なぜ閉じこもってしまうのか、どう対処したら良いのか、それらを学んでサポートできる人を求めている。

### 2. 「こどもサポーター」（こころ支援）の研修スタンダード

こどもサポーター（こころ支援）の研修スタンダードを次ページの表9に示した。全体を8領域に分け、それぞれの領域に12の講義題・項目例を示した。以下を参考にして、4領域以上にわたって8コマ（720分）の講義題目を設定して欲しい。

表9 「こどもサポーター（こころ支援）」の研修スタンダード

領域	学習目的	講義題・項目 例
1. 指導者論	こどもサポーターは教師としてではなく、こどもをサポートする指導者としての役割が期待される。それはどういう指導者なのか、その指導者像をつかむ。	教育支援人材認証とは 教職論概説 指導者論 指導と指導者の権威 子どもの望む指導者像 援助者に求められる資質
2. 子どもの理解	子どもの変化が激しくつかみにくなっている。今子どもたちはどうなっているのか、こどもを理解することによってサポーターとしての役割を理解できるようにする。	子どもの発達をとらえる 子どもの心の理解 子どもの権利と保護 孤立化する子どもたち 不登校と引きこもり 現在の子育て事情を学ぶ
3. 子どもを取り巻く環境の理解	少子化と核家族化といわれる中で、子どもを取り巻く環境がどのように変わってきているのか学び、子どものコミュニケーション能力を疎外しているものを理解する。	少子化社会の家族・地域 地域社会の変容と子ども 消費社会と遊びの変化 メディアの影響と子ども 国際化と多文化共生 コミュニケーション不全
4. こどものこころの理解（背景の理解）	現代に生きるこども達がどのような環境におかれ、どのような悩みを抱えているのか理解する。またそうした悩みが子ども達の生活にどのように影響しているのか学ぶ。	子どもの発達と心の発達 幼児期の遊び体験と集団 自然体験が与える影響 少子化と親子関係性 反抗期をどう過ごしている 子どもの声を聞いてみると
5. 不登校（引きこもり）とは何か（実態の理解）	とりわけ不登校や引きこもりの実態とその状態にいる子どもたちはどのような課題をかかえているのか理解する。また不登校や引きこもりがどのような背景で表面化するのか理解する。	不登校のメカニズム いじめと不登校相関性は 虐待と不登校の関係性は 不登校の下位分類と評価学校管 理体制と不登校 広汎性発達障害と不登校
6. 不登校（引きこもり）への対応	不登校や引きこもりの状態に陥っているこども達に対して、どのように対応していくべきか学ぶ。 事例をもとにして具体的な対処の仕方を実践的に学び、方法のいくつかのノウハウを身につける。	専門機関との連携をとる コミュニケーション力を メンタルヘルスと受容 自然体験を通して創造力 第三者の関りと社会体験 人との適切な距離感づくり 居場所としての親の会
7. 子どもに関する社会制度や法制度の理解	不登校や引きこもりの発達と成長を理解し保証するためには彼らをとりにく環境、とりわけ法制度を理解する必要がある。そのいくつかを学ぶ。	児童福祉法から学ぶ 児童虐待防止法 児童養護施設とは何か フリースクールと適応教室 スクールカウンセリング 子どもの権利条約とは
8. 「こどもサポーター（こころ支援）」における支援のありかた	こどもサポーターとして学校においてどのように関わっていくのか、その道筋を学ぶ。不登校への対応や卒業後への配慮など支援者としての可能性を学ぶ。	こどもサポーターの理念 支援者に求められるもの 支援者と指導者の違いは プライバシーの守秘義務 こどもの最善の利益とは

\*基本的には60分で12コマ(720分)ですが、90分を基本とする場合は上記8つの領域から必ず4つ以上を実施する。

### 3. 「こどもパートナー」認証の読み替え

「こどもパートナー」認証付与の 4 コマについては、以下の表 10 を参照として、「こどもサポーター」研修の中から 4 コマを学習すれば、読み替えることができる。なお、「こどもパートナー」の講義は 60 分を原則としているが、「こどもサポーター」の場合、90 分を基本とする研修が多い。その場合、90 分の講義 3 コマ（90 分×3＝270 分）で 4 コマ（60 分×4＝240 分）分として換算できるものとする。ただし、「1. 支援者とは」は必修扱いとする。

表 10 こどもパートナーとこどもサポーターの読み替え

こどもパートナー	こどもサポーター（こころ支援）
1 支援者とは	1 指導者論
2 子ども理解	2 子どもの理解
3 子どもを取り巻く環境の理解	3 子どもを取り巻く環境の理解
4 子どもとの接し方	6 不登校ひきこもりへの対応 8 「こどもサポーター（こころ支援）」 における支援のありかた

### 1. 「こどもサポーター」（学校活動支援）研修の趣旨

公教育におけるいわゆる学校支援の内容としては、授業の補助から、登下校の見守りやクラブ活動の指導にいたるまで教育課程内外まで多岐にわたっている。昨今の教育をめぐる様々な改革や社会的変化の中でますます変貌していく公教育の場においては、かつては「こども」だった学生や社会人が、自らの経験した「公教育」理解のみに縛られることなく、それらの変化に対応した支援の在り方を求められている。

本研修においては、このような観点から、変貌していく現在の公教育の性質や在り方の理解を深めることで、今、公教育の場で必要とされている形の支援を考えつつ、幅広い内容にわたる学校支援活動において共通して求められる実践力を身につけることを企図する。

### 2. こどもサポーター（学校活動支援）の研修スタンダード

こどもサポーター（学校活動支援）の研修スタンダードを次ページの表 11 に示した。全体を 8 領域に分け、それぞれの領域に 12 前後の講義題・項目例を示した。多岐にわたる学校支援活動に必要な力を身につけるためにも、それぞれの領域から最低 1 つの項目をカバーすることが望ましい。

## Ⅶ 「こどもサポーター」(学校活動支援)研修の概要

表 11 「こどもサポーター」(学校活動支援)の研修スタンダード

領域	学習目的	語義題・項目 例	語義題・項目 例
1. こども・教育支援者論	本認証制度の趣旨とともに、学校教育課程の内外におけるこども・教育支援者の役割についての理解を深める。	教育支援人材認証制度について 教育支援原論 ケアリングの教育学の基礎 教育思想・哲学の基礎 教育倫理学の基礎 保育思想の基礎	反省的実践とこども・教育支援 「叱らない子育て」と「褒め力」 支援における二つの区別 (「叱ると怒る」・「思いやり(ケア)と甘やかし」) こどもの権利と支援者の役割 多忙化する教師の支援と 教育支援人材育成の課題 「当事者学」の興隆と「教師の専門性」の現在
2. こども理解Ⅰ： 「こども」と 「おとな」	「おとな」と「こども」の連続性・不連続性について、こどもの「発達」および社会文化的背景から理解を深める。	こども理解の基礎 発達心理学の基礎 学年・学校種を軸にみた思春期の心理学 こども観の社会学 道徳判断の発達理論 こどもの活動観察(観察実習)	「こどもの発見」とその後 サイコ・パブルとこどもの心理 ピアジェ理論とその後 ジェンダーと発達心理 「こどもリテラシー」を高めよう ケータイ・インターネット時代のこども
3. こども理解Ⅱ： こども臨床の 基礎	主として学校や社会生活にストレートに適用できないこどもたちへの理解を深めるとともに、そのようなこどもの成長発達の支援のあり方について考える。	臨床教育学の基礎 カウンセリングマインド論・入門 スクールカウンセリング論・入門 学校ケースメソッド・鍵的場面 学校教育活動支援体験(実習) 逸脱の社会学・入門	小1プロブレムと中1ギャップ 不登校・ひきこもりのこどもたち 保健室から見るこどもの現在 いじめの構造 「友だち地獄」の中のこどもたち こどもの自尊感情(セルフ・エスティーム)を高めよう
4. 学校理解Ⅰ： 組織としての 学校の内部	組織としての学校内の秩序、公平性のあり方等に関する理解を深める。	教育法規・制度の基礎 学校の歴史と現在 教職の歴史と現在 学校教育改革の動向 教育課程の歴史と現在 学校危機管理入門	スクールハラスメントを防ぐために 学校安全・危機管理における 「支援」者の役割 学校事故に関する事例研究 応急手当の技術 学力観の変遷と学力テスト 感情労働としての教職
5. 学校理解Ⅱ： 社会の中の学校	学校が社会の中で果たしている役割を社会的に理解するとともに、様々な社会資源や施設と学校との連携のあり方についても理解を深める。	学校教育の社会学の基礎 放課後児童施策の歴史と現在 社会教育の基礎 ジェンダーと学校教育 スクール・ソーシャルワーク論・入門	学力・学歴と社会階層 ソーシャル・キャピタルと学校支援 学社連携・学社融合 「力のある学校」と地域社会 学童保育のこどもたち 学校化社会・再考
6. 変貌する家庭 と学校	いわゆる近代家族の枠組みで家族のあり方を理解するだけでなく、多様化していく家族のあり方についても理解を深める。	家族社会学の基礎 ポスト近代家族論・入門 児童福祉の基礎 家族心理学の基礎 家庭教育学の基礎 比較家族論・入門	こどもの貧困と虐待 母子家庭・父子家庭の支援 子育ての歴史 児童養護施設で育つこども 異文化を背景に持つこども メディア(絵本・ドラマ etc.)の中に見る 家族観
7. こどもの遊びと 集団の指導と 支援	こどもの集団のあり方について、遊びや組織活動に着目しながら理解するとともに、その指導と支援方法についての理解も深める。	こども支援活動体験(実習) クラブ部活動支援(実習) 手作りおもちゃ体験(実習) 「遊び」の社会学・入門 こどもグループダイナミクス・ 入門おもちゃと遊びの歴史・現在	おもちゃ・テレビゲームとこども バルシューレ理論と実践に学ぶこどもの指導 こどものためのコーチングとメンタリング こどもの農業・飼育体験支援(実習) 学級崩壊から学ぶこども集団の現在 現代クラブ活動に見るこども
8. 「障害」のある こどもの支援と 特別支援教育	特別支援教育時代における学校支援に必要な基本的な障害理解、支援技術、法規範、理念等について理解を深める。	特別支援教育に関する法規範とその理念 発達障害のある子どもの理解とその支援法 身体に障害のある子どもの理解とその支援法 特別支援教育時代における教材・ 教育機器研究 特別支援学校・学級の現在	「障害者の権利条約」と特別支援教育 特別支援教育時代における「体育」 「特別支援教育は、『障害』児を 特別扱いするのか？」 「増やされる障害児」と医療化する学校教育 世界のインクルーシブ教育 「医療的ケア」の必要なこどもの支援

### 3. 「こどもパートナー」認証の読み替え

「こどもパートナー」認証付与の4コマについては、以下の表12を参照として、「こどもサポーター」研修の中から4コマを学習すれば、読み替えることができる。なお、「こどもパートナー」の講義は60分を原則としているが、「こどもサポーター」の場合、90分を基本とする研修が多い。その場合、90分の講義3コマ(90分×3=270分)で4コマ(60分×4=240分)分として換算できるものとする。ただし、「1. 支援者とは」は必修扱いとする。

表12 「こどもパートナー」と「こどもサポーター(学校活動支援)」の読み替え

こどもパートナー	こどもサポーター(外国語活動)
1 支援者とは	1 こども・教育支援者論
2 子ども理解	2 こども理解Ⅰ:「こども」と「おとな」 3 こども理解Ⅱ:こども臨床の基礎
3 子どもを取り巻く環境の理解	4 学校理解Ⅰ:組織としての学校の内部 5 学校理解Ⅱ:社会の中の学校 6 変貌する家庭と学校
4 子どもとの接し方	6 こどもの遊びと集団の指導と支援 7 「障害」のあるこどもの支援と特別支援教育

### 1. 「こどもサポーター」(ゲストティーチャー) 研修の趣旨

小学校や中学校、高等学校等では、主に生活科や総合的な学習の時間、職業体験やキャリア教育等において、地域の人や専門家などが自らの仕事や経験、知識を子どもたちに伝える活動が数多く実践されています。しかし、経験や知識が乏しい子どもたちに専門的なことがらを伝えるのは決してたやすいことではありません。

本研修は、生活科や総合的な学習の時間を中心に様々な場面で、自らが従事している仕事や活動あるいは地域の様々なことをうまく伝えることのできる人材の育成を目指しています。

### 2. こどもサポーター(ゲストティーチャー)の研修スタンダード

こどもサポーター(ゲストティーチャー)の研修スタンダードを表13に示しました。全体を8領域に分け、それぞれの領域に具体的な講義題・項目例、取り組み方法を示しています。これらを参照して、5領域以上にわたって8コマ(1コマ60分)の講義題目を設定して欲しいものです。